



対馬丸記念館と、遺族・サポーターを結ぶ、ふれあいの情報誌

対馬丸 通信

Tsushima maru press

令和3年3月25日発行 第42号

発行：(公財)対馬丸記念会
発行人：高良 政勝
編集：対馬丸記念会事務局
この冊子は、厚生労働省の予算で作成しています

大城立裕先生 お世話になりました そして色々ありがとうございました

対馬丸とご縁の深かった大城立裕先生が昨年十月十七日、お亡くなりになりました。対馬丸のことを気遣い、何かあるとよくお電話くださっていただけにとても残念です。

大城先生と対馬丸との出会いは今から六〇年前、一九六〇年に遡ります。当時、対馬丸遭難者遺族会の新里清篤会長は、国に対し対馬丸の子どもたちを「準軍属としての処遇」の陳情や「海上慰霊祭の開催」「船体引き揚げと収骨」を要請するなど多忙を極めていました。その際、対馬丸の悲劇も後世に伝えねばと、大城先生に記録の執筆を依頼したことが先生とご縁を結ぶきっかけとなりました。

対馬丸の事件当時は箱口令が敷かれていたため、先生は依頼を受けて初めて対馬丸のことを知りません。アジア太平洋戦争開戦から敗戦を重ねていた日本は昭和十九年、最後の国防圏だったサイパンが陥落、次は沖繩が戦場になることが予想されていました。沖繩県は学童を含む、十万人の疎開の指示を出しますが、沖繩周辺の海域は多くの船が沈められ危険な状態で、大城先生は当時の様子を「行くも地獄、残るも地獄」と表現しています。

対馬丸のことを書くに当たり、魚雷の爆撃を受けた時の惨状を生幸存者数名から聞き取り、生幸存者それぞれの記録を残し

ていただきました。一方で、沈みゆく子どもたちのことは、闇の中なだけ落ちていく泣き叫ぶ声を聞いた、だけに書き留めています。

最近の新聞にも、「今でも悔しく思うの



は、溺れ死にゆく最中の子どもたちの意識を書ききれなかったこと。いくら想像しても書くことはできなかった」と語っておられます。

対馬丸の事実を語りたかったのは、い

のちそして未来を奪われた子どもたちです。

今を生きる私たちは何をなすべきか、語らせてもらえない彼らの無念の死に応えるためにできることは何なのか、私たちは求め続けていかなければなりません。

その一つに対馬丸記念館があります。私たちは記念館を「対馬丸の子どもたち」と「今を生きる子どもたち」が出会い、戦争と平和について対話できる空間と位置付けています。国策で一五〇〇余名が犠牲になったこの事実を忘れ得ぬためにも、記念館を守り、永続させねばなりません。そして記念館の存続に欠かせないのが、協力会員の皆さまの存在です。協力会入会の依頼文を書いてくださったのも大城先生です。大城先生そして協力会員の皆さまに支えられ、今日を迎えられております。

昨年(令和2年)1月19日 琉球新報ホールにて 組踊出演の児童たちとともに
右端は指導に当たった 女流組踊研究会めばな代表山城亜矢乃さん

平成二十四年、本土復帰四十年記念公演として大城先生作 新作組踊「海鳴りの彼方」対馬丸の子ら」を幸喜良秀先生演出で上演しました。対馬丸が撃沈され生き残った子どもたちの夢と悲しみを組踊形式で、現代の子どもたちにウチナー口を喋らせ、戦争の記憶と言葉の記憶を伝えてもらおうとの野心があったと先生は語っております。対馬丸撃沈から七〇年

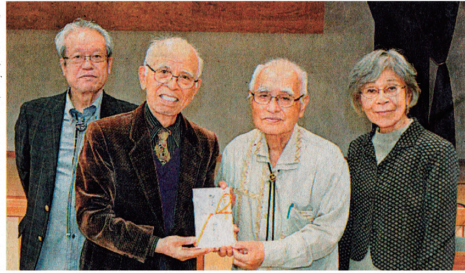
目には、「今伝え継ぐ対馬丸」をテーマに、大城先生と作家の佐藤優さんの祈念対談が行なわれました。悲劇をどう生かすか歴史に学ぶ重要性を強調しています。

最近では、昨年一月に那覇市で北谷町の子どもたちによる「組踊対馬丸」が上演されました。これは「海鳴りの彼方」対馬丸の子ら」を基につくられ、組踊という沖縄の伝統芸能が若い世代に継承された意義深い作品になっています。

初版の「悪石島―疎開船学童死のドキュメント」から書名を「対馬丸」に変更し、その後も再版を重ね、対馬丸のことを深く掘り下げ今日に至っております。早い時期にアニメーションにもなり、広く世に知られるようになりました。

長きにわたり対馬丸の子どもたちに思いを馳せてこられた大城先生の意志を継いで、これからもみんなの記念館として共に歩んでいきたいと思っています。どうぞ先生、対馬丸の子どもたちと共に記念館をお守りくださいますよう遺族、生存者に代わりましてお祈り致しております。長い間、有難うございました。厚くお礼申し上げます。ご冥福を心からお祈り申し上げます。

常務理事 外間邦子



対馬丸記念会の高良政勝理事長（左から2人目）に寄付金を手渡す垣花奉頌会の比嘉眞三理事長（同3人目）。27日、那覇市・那覇軍用地等地主会館

平成 29 年以來 4 回目で 合計 560 万円を 頂戴しています

令和 3 年 1 月 29 日 沖縄タイムス

対馬丸記念会に 140 万円寄付

那覇市垣花奉頌会

那覇市の対馬丸記念館に役立ててもらおうと、那覇市垣花奉頌会（比嘉眞三理事長）は27日、対馬丸記念会（高良政勝理事長）に140万円を寄付した。同館は新型コロナウイルスの影響で入館者が例年の8割減となり、厳しい運営が続く。比嘉理事長は「コロナの影響をもちに受け苦勞さされている。少しでも役に立てば」と述べた。

垣花奉頌会は戦前の垣花出身者でつくる一般財団法人。児童・生徒の奨学金や福祉事業の支援など社会貢献に取り組んでいる。対馬丸記念会への寄付は2017年から始まり、4回目。対馬丸記念館の運営費は年間約600万円の入館料が大きな頼りだが、新型コロナの影響で、延べ約2カ月の休館となり、その後も入館者が激減している。高良理事長は「国や県の補助金も減り、運営自体が危機的な状況。例年は設備の充実充てるが、今回は運営資金に一部使わせていただきたい」と感謝した。

対馬丸記念館協力会員並びに 寄付者の皆様へ お礼

沖縄は新緑が美しい、うりずんの季節を迎えております。協力会員、ご寄付会員のみなさま、いかがおすごでしょうか。いつも記念館にあたたかいご支援をいただき、ほんとうにありがとうございます。

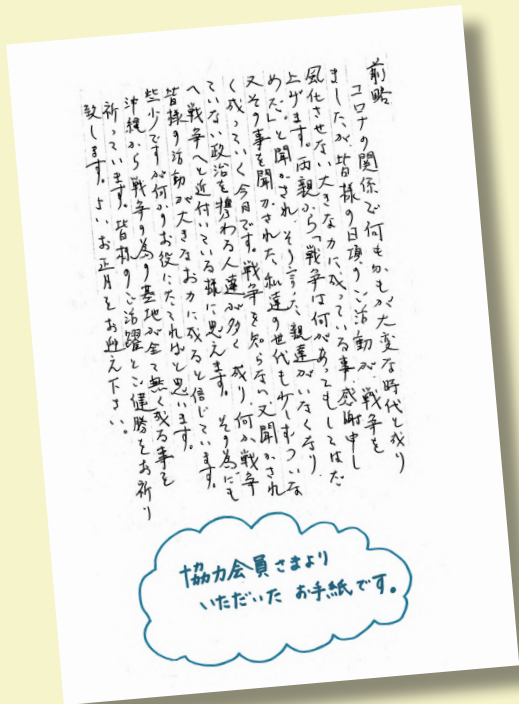
現在、会員さまには更新月のひと月前に継続のご案内を発送し、協会の更新、ならびにご寄付くださったみなさまには、担当より新しい会員証を10日以内を目途にお送りしております。

郵便局よりお振込みくださる会員様は、遠方にお住まいで直接お目にかかれないうちも、たくさん多くいらつしやるので、短いお手紙を添えることもあるのですが、最近、「ありがとう。」「お手紙うれしかったよ。」「今、コロ

ナ禍でとても大変な時だとは思いますが、どうぞがんばってね。」等々、お返事をくださるかたもいらして、スタッフ皆でそれらのメッセージを共有しては心励まされ、一歩、また一歩と歩みを進める力をいただいております。

新型コロナウイルスの影響による来館者の激減には、正直、限りない心細さと寂しさを感じつつもその片方で、ご支援くださるひとりひとりの皆さまとの温かいつながりを実感している今日この頃です。あらためて感謝の気持ちをお伝えすると共に、皆さまのご健康を心よりお祈り申し上げます。

（会員担当スタッフ）



戦後75年の節目に、戦の語り部として県から感謝状を贈られた功労者ら＝17日、糸満市摩文仁の沖縄平和祈念堂



戦の語り部に感謝状 県が初、118人たたえ

沖縄戦などを生き延び、次世代に戦争の実相と教訓を伝えてきた語り部らに17日、県から功労者として感謝状が贈られた。戦後75年の節目に平和を考える機会にしようと、県が初めて企画した。同日、糸満市摩文仁の沖縄平和祈念堂で贈呈式が開かれ、功労者118人の代表18人に謝花喜一郎副知事から感謝状が手渡された。

県は各市町村や団体から推薦を受け、活動歴10年以上などを基準に118人を選定した。贈呈式は当初6月を予定していたが、新型コロナウイルスの感染拡大を受け延期していた。

語り部を代表して元白梅学徒隊の中山きくさん(91)＝那覇市＝は「若い人で語り部の道を行んでいる人がいることが頼もしい」とあいさつした。読谷村の小学校などで講話してきた玉城秀昭さん(90)＝同村＝は「戦争はみじめで苦しく絶対だめだ。平和な世の中が一番いい」と力を込めた。玉城アニー知事のあいさつを代読した謝花副知事は

▲当館から、語り部として活躍されている生存者5人に贈呈されました。当日は受賞者を代表して平良啓子さんに出席いただきました。

令和2年10月18日 琉球新報

「平和の発信に多大な貢献をされた」と感謝した。

上原さん作品 最優秀

石橋湛山平和賞、糸満中3年

エッセー 命の尊さ、大浦湾で感じ



「第9回石橋湛山平和賞」 中学生の部で最優秀賞に選ばれた上原一路さん(27日、糸満市の糸満中学校)

エッセーを表彰する「第9回石橋湛山平和賞」の受賞作品が24日に発表され、中学生の部で糸満中3年の上原一路さん(15)の作品「届かない、貝の声」が最優秀賞に選ばれた。上原さんはエッセーで、新基地建設が進む名護市辺野古の大浦湾に面した瀬高の浜を訪れた際に、色鮮やかな貝殻を見て生物の多様性や生命の尊さを感じ「ここに命の証、沖縄の声を伝えたい」とつづった。

受賞は山梨県にある「山梨平和ミュージアム」石橋湛山記念館が主催している。今回は中学生の部に47件、一般の部に16件の応募があり、9人が受賞した。県内からの中学生の部最優秀賞受賞は、昨年に続いて2人目。

上原さんは幼い頃から、平和や基地問題について両親から話を聞いて育った。先日は大浦湾でグラスボートに乗り、海中のサンゴ礁に魅了される一方で、海上の浮具(フロート)や埋め立て作業の様子に胸を痛めた。嘉手納町の「道の駅かてな」から嘉手納基地を見たいともある。上原さんは「(糸満は)生活圏内に基地があるわけではないので、同級生から基地問題の話題が上がらないのは仕方ないと思う」と話した上で「それでも平和や基地問題で、もっと全国的に議論されるべきではないか。これからも思いが届くように声を上げ続けていきたい」と話した。

令和2年11月28日 琉球新報



おめでとうございます
つしま丸児童合唱団 O G
による快挙です！



「届けたい 貝の声 沖縄の声」

沖縄県糸満市立糸満中学校三年

上原一路(ひろ)

今、大浦湾は米軍辺野古新基地建設による埋め立て工事が進んでいます。沖縄島の北部、名護市の東海岸の瀬嵩(せだけ)というところから、うっそうとしたアダムのトンネルを通り抜けると、目の前に真っ青な大浦湾が広がっています。埋め立てのために設置されたオレンジ色のフロートが、水平線の手前に切り取り線のようになんと浮いていて、その先に土砂を積んだ運搬船が何隻も見えます。

工事が本格化する前に、美しい海を一度見ておこうと、2015年7月、私は家族と一緒に初めて大浦湾の瀬嵩浜を訪れました。物々しいキャンプシユワブのゲート前を通り過ぎ、瀬嵩浜に着くと、今まで見たことのない色鮮やかで珍しく、美しい貝殻がたくさん落ちていて、ことに気づきました。私は思わず拾い集め、夏休みの自由研究にしようと、ゆりあげ貝ミュージアム(現言葉と貝のミュージアム)で調べたところ、全部で40種類もありました。ミュージアムにはそれを遥かに

超える約600種類の貝があり、その多くが瀬嵩浜に打ち上がったものでした。私はその多様性と美しき、面白さにひきつけられ、「貝の先生になろう」と思ったほどでした。

大浦湾には5806種の生き物が確認されており、そのうち262種が絶滅危惧種です。絶滅危惧Ⅰ類のジュゴン、絶滅危惧Ⅱ類の渡り鳥ベニアジサシなども来ます。大浦湾は、何百年も生きていたサンゴ群や、ジュゴンの餌となる海藻の藻場、干潟やマングローブ、川から流れ込む淡水と、湾の深さゆえ深海の栄養豊富な海水のまじりあう、複雑で豊かなとても珍しい環境です。生き物のうち3番目に多いのが甲殻類で580種、魚類が1040種、そして最も多いのが貝殻で1974種、瀬嵩浜には700種以上の貝殻が打ち上がります。毎年のように新種、日本初記録の生物が発見されています。そこで私もどのくらいの貝殻が打ち上がるのか調査しようと思い、2015年7月から2018年10月までの約3年間、休みの時に瀬嵩浜に通い、バケツいっぱい貝殻を拾っては同定する作業を繰り返しました。

調査の結果、同定できたのは

462種もありました。これだけ多くの種の貝が打ち上がる浜は沖縄の中でも数少なく、大浦湾の貝の多様性を示しています。さらに、レッドデータ沖繩と環境省レッドリストによると、絶滅のおそれのある種は50種で、採集した貝の10・8パーセントに及びました。

しかし拡大する海上フロートの下に、更に汚濁防止膜が設置され、2017年ごろから打ち上がる貝殻が明らかに減ってきたのです。私は「海が殺されていく」と感じました。工事が湾内の潮流や環境に影響を与えていると考えた私は、これまでの調査結果を多くの人に知ってもらおうと、学会や集会、コンテストなどで発表してきました。貝殻の標本を展示すると、皆さん「綺麗(きれい)だねえ」「こんなにたくさんいるの?」と驚かれます。それは、私が初めて貝を拾ったあの日の感想と同じです。

県知事選挙で辺野古新基地建設に反対の候補が当選し、改めて民意を示したにもかかわらず、2018年12月から土砂投入が始まりました。2019年2月の辺野古型め立ての賛否を問う県民投票では、「反対」が有効投票数の72・15パーセントに達しまし

たが、工事は止まりません。

費用は当初の3倍の9300億と政府は見積もっていますが、沖縄県は2兆5500億円以上、年月にして12年以上かかると試算しています。なぜなら大浦湾には活断層や、深い海底の下90メートルに及ぶマヨネーズのような軟弱地盤があり、工事は不可能だと考えられているからです。

さらに埋立に必要な土砂は、約1690万立方メートル、10トンダンブ約360万台分とされています。辺野古とは反対側の本部半島にある山を切り崩し、赤土が船やトラックで搬出されています。採取地は北部だけでなく離島も含めた県内に広がり、私の住む南部の糸満からも土砂が運ばれるという設計変更申請が出されています。糸満は沖縄戦の激戦地で、兵士だけでなく住民も含め多くの人が亡くなった土地です。沖縄戦で亡くなった全ての人を慰霊する平和の礎がある摩文仁という地域から、遺骨の含まれているかもしれない土が運ばれようとしています。この計画変更に対し、知事に対して承認しないように求める「意見書」が沖縄県内外、海外からも1万5000通以上集まりました。私も、小学生の妹も「貴重な自然を学ぶ場を守ってほしい」と意見書を書きました。

しかし、辺野古側の浅瀬の間は埋め立てが進み、辺野古崎と湾沖にある長島との間に護岸が作られ、大浦湾内の潮流は塞がれて一層環境を破壊しています。それでもまだ全体の4パーセントしか埋め立てられていません。どれだけ巨大なのが分かると思います。

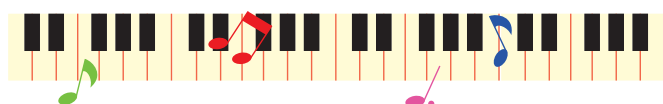
「い」と意見書を書きました。

憲法では基本的人権、国民主権、平和主義がうたわれていますが、沖縄にはそれが平等にあるとは思えません。75年前、戦争で県民の4人に1人が亡くなったほどの犠牲を払った沖縄が、「戦争につながる基地をこれ以上作らないでくれ」という声は、なぜ無視され続けてしまっているのでしょうか。そこに生きる人の声をかき消してまで作られる基地は平和のためにあると言えるのでしょうか。

声のない貝と声のある私達。私は貝を通して、ここに確かに生きていくという命の証、沖縄の声を伝えたい。私達はみんな力を合わせて、この貴重な生物多様性の宝庫の海を守っていく責任があると思います。大浦湾の貝を守ることができたら、沖縄の平和と民主主義、人権が守られると思います。

守られると思います。

つしま丸児童合唱団便り



今年度実施イベント：ハローウィン・パーティー 10月31日、クリスマス会 12月12日

令和2年度は、つしま丸児童合唱団もコロナ禍の影響を受け、充分な合唱団活動ができませんでした。新年度の活動も予断を許さない状況です。
この機会に、活動を指導していただいてる高里千穂子先生に、これまでの活動や目的などを振り返っていただきます。

「響け！届け！子どもたちの歌声！」 つしま丸児童合唱団 団長 高里千穂子

つしま丸児童合唱団は、未来を拓かれた子どもたちが、命のバトンを受け継ぎ、恒久平和を願い、結成9年目の活動をしています。10年前、対馬丸事件の語り芝居があり、その舞台の前座を合唱で、との依頼がきっかけで、つしま丸児童合唱団の指導をすることになりました。
対馬丸に乗って、夢と希望に胸膨らませて旅だつた子どもたちに届くように館内いっぱい歌声が響く。当初、この記念館で子ども達が元気でわいわいしているのだからかと、懸念しましたが、記念会の皆さんが、「対馬丸の子ども達はきつと喜んでるよ。」「一緒に歌っていると思うよ。」の言葉に支えられ、笑顔、勇気、感謝を大事にし、継続する力、音楽の力を信じてこれまで指導しています。
つしま丸児童合唱団の活動は、毎週土曜日、9時～10時まで英語遊びです。合唱は、10時～11時45分までです。違う年齢、他校との集まりで構成されている当団は、週1回の活動ですが、6年生がリーダーとなり、地域の子とも会のような居場所づくりとしてもいい環境です。伴奏者は3代目の長嶺カンナ先生。ボイストレーナーとして、声楽家の友利あつ子先生と共に活動しています。
当初は60人余でしたが現在は15名で活動しています。今年度はコロナ禍の影響で新団員の募集も出来ず、自粛しながらの活動ですので、これまでの半分の活動日数になりました。
例年の活動として、5月、「小桜の塔」で「こいのぼり」掲揚と新団員を迎えて結団式。6月、全沖縄戦没者追悼式。8月、対馬丸慰霊祭。10月、那覇市戦没者追悼式の3つの慰霊祭で献唱。12月、那覇メインプレイス特設会場でクリスマスコンサート。3月、卒業生を囲んで進級を祝う会があります。
団員は、歌だけでなく、平和について学ぶ機会に恵まれています。団員の中には、学んだことを題材にして、県主催の平和のメツ

セージの作文の部や絵の部門で入選しています。また、童話・お話大会で賞をもらっている団員もいます。活躍はほかの団員の励みになっています。
一昨年の令和元年12月には、「沖縄県第1回 ちゅうらうちなー草の根平和貢献賞」を頂きました。地道な活動が認められてうれしい出来事でした。

歌声が風になって、対馬丸に乗って逝つた子どもたちに歌声が届きますように、また、未来ある子ども達が、笑顔になり、生きる勇気が湧き、それを生かして活躍出来ることを期待します。
その日々の中、「小桜の塔」の皆さんはきつとお守りして下さっていると思います。
今後も、歌声の響きを届けることが出来るように、また、未来ある子どもたちの成長を、記念会や地域の皆さんのご協力とご支援を賜り、スタッフの仲間と共に感謝を込めて活動したいと思えます。

コロナ禍がうまくコントロールされたら、新たな団員募集で活動が継続していけることを願っていますので、その時はよろしくお願い申し上げます。

合唱団員募集

小学校1年生～6年生 体験見学大歓迎
午前9時～10時/英語遊び 午前10時～11時45分/合唱
英語あそびは、体を使って遊びながら英語の音に触れ、英語に一番大切なコミュニケーション力を身につけています。
合唱活動は、平和に関する曲を中心に練習し、対馬丸慰霊祭他多くの場で平和の心を届けています。
みんな学校も学年も違いますが、楽しく仲良く活動していますので、ぜひ1度、体験にきて下さい。
申込みはいつでも受付していますので、対馬丸記念館へお問合せ下さい。



来館・視察



- 9月23日 内閣府沖縄振興局茂木勝吉参事官補佐、同五十嵐未央参事官付
- 10月13日 内閣府沖縄振興局岡平昌平政務官
- 10月14日 内閣府沖縄振興局杉田香子調査官、同五十嵐未央参事官付
- 10月21日 内閣府沖縄振興局中田和幸総務課長、同田中康智係長
- 11月25日 内閣府沖縄振興局植原和彦調査官、同藤井俊宏主査、同塩田麻由子参事官付

イベント

- 11月21日 第37回「やーがんじゅー講座」
「新型コロナウイルス感染症を知る」の演題で、沖縄赤十字病院副院長兼呼吸器内科部長の赤嶺盛和医学博士に講演していただきました。コロナ禍の最中で関心の高さもありましたが、30人に限定しての講座になりました。感染症予防への有意義な講座でした。
- 12月19日～1月24日 第35回対馬丸記念館特別展
「全琉小・中・高校 図画・作文・書道コンクール 那覇秀作展」
今年も、今を生きる子ども達の平和で生き生きとした、生活を表現した作品展が開催されました。今回は作品数が多いので、那覇市内の小・中学生の優秀・最優秀賞約200点の作品を展示しました。
- 3月13日 第38回「やーがんじゅー講座」
「シニア生活をICTで賢く豊かに」の演題で特定非営利活動法人シニアネットN.A.H.Aの講師達を迎えて、シニアが使いこなす便利なスマートフォン・アプリの説明を行い、その後ラジオアプリなどをダウンロードしました。
- 9月23日 対馬丸平和祈念事業協議会幹事会
- 11月25日 令和2年度第1回対馬丸平和祈念事業協議会

トピックス

- 9月23日 対馬丸平和祈念事業協議会幹事会
- 11月25日 令和2年度第1回対馬丸平和祈念事業協議会
- 内閣府、沖縄県、対馬丸記念館三者による来館促進策についての現状と進捗状況等を議題とした定例会議が実施されました。
- 10月17日 戦の語り部功労者感謝状贈呈式
当館から平良啓子、上原清、照屋恒、マリア・パートラフ、高良政勝、以上生存者5氏（順不同）

敬称略)が感謝状を頂戴しました。本文3面の新聞記事転載をご覧下さい。

- 10月21日 令和2年度第1回平和教育推進連携委員会
- 2月24日 令和2年度第2回平和教育推進連携委員会

令和2年度の平和教育推進連携委員会では、今年度の那覇市内全小中学校平和教育研修会事業報告と次年度の同事業についての実施案について討議されました。

ご寄附

対馬丸記念館の現状等を報告するため三役で那覇市長を表敬訪問しました。

ご寄附

- 真栄城徳秀様
高良理事長と同じく壺屋小学校の校医(真栄城耳鼻咽喉科院長)をされているご縁で。(10月12日)
- 医療法人陽心会様
慰霊祭への医療スタッフ派遣など常々当会へお心遣い戴いており、同法人(高良健理事長)より。(12月10日)
- 株式会社国際パーキング
生存者で遺族でもあった、故高良千代様のご家族から。(12月12日)
- 山加恵津子様(1月16日)
- 高良理事長の大坂時代のご縁で、那覇市垣花泰頌会様(比嘉眞三理事長)より。本文2

頁の新聞記事転載をご覧下さい。(1月27日) 山田英生様

過去何度もご寄付を頂戴して、株式会社山田養蜂場代表取締役から。(2月18日)

以上、大口寄付者です。

□ 令和2年9月1日～令和3年2月28日(順不同、敬称略)

- 山下幹雄、備瀬初江、川村則夫、長崎信子、神谷敏充、又吉國雄、岸本勝次、仲間初子、宮城壮成、宮城讓二、渡久山久子、大湾朝明、本永幸子、酒光幸子、新垣匡子、林貞子、照屋保子、村山弘行、川平朝清、宮里八重子、武田克彦、久美子、西原幸子、山川敏江、宮城玲子、中村直子、平良啓子、渡口彦信、山入端真弓、小波津須美子、阿波根あさ子、玉城節子、饒平名秀昌、沼口照千代、佐藤勝子、外間邦子、斉藤幸江、ぶどうの木保育園、島袋常宏、名城政男、上間勝子、池宮城紀夫、内間美代子、近藤習子、仲本和男、石神幸郎、津嘉山朝祥、吉岡奈津子、高良邦弘、前田通江、謝花奈津子、大山日出男、上野和子、山川敏江、伊佐成子、伊佐キク、宮城宣子、ケーンズコーワン愛子、山里將浩、渡邊史博、飯島理恵、島袋達子、成田英道、亀井和夫、大槻裕治、酒井俊一、友寄泰樹、吉田創、伊藤嘉章、種市雅彦、垣内富貴、柳木則子、新見治、島袋文雄、崎原盛吉、

- 又吉康男、長嶋和人、三浦千賀子、金子堅二、石川由紀、松田きく、増田恵子、幸地秀子、前田正宏、仲田清一郎、笹谷春乃、石橋薫、久高政治、後藤顕治、岡野洋三、和田みどり、大浜安史、羽生恵美子、伊佐実千代、稲葉美智恵、亀井和夫、坂上彰、照屋早智江、坂井浩二、白井洸子、寺岡聖豪、西沢洋明、生田恵子、安里芳子、吉平弘一、花岡麗華、尚軍、當間卓、長井幸一、田村芳記、古谷信彦、安部チトセ、久保光子、當間榮安、川原伊津子、玉城優江、中村祐一、名城和子、大島由貴、竹松敏江、長沼克宗、瀬野喜代、佐久本真智子、伊波純、新城和子、与那嶺敦、森本和子、上原齒科クリニク、松永和子、橋本明典、座安静枝、宮良道子、廣瀬重之、山下幸雄、平良順一、千頭和功、天田良子、大畑貞治、又吉盛弘、金城秀男、プラスチックタルクリニク、牧志功子、垣花賢、金城光也、大城純市、玉城均、大山佐千夫、友寄喜樹、嘉数武男、安藤和枝、小緑清美、上原かな、眞喜屋睦子、嶺井浩、近藤栄子、

以上の皆様よりご寄付を頂戴いたしました。心よりお礼を申し上げます。

シニア割引新設
65歳以上のシニア入館料が10%割引で、お一人様450円になりました。